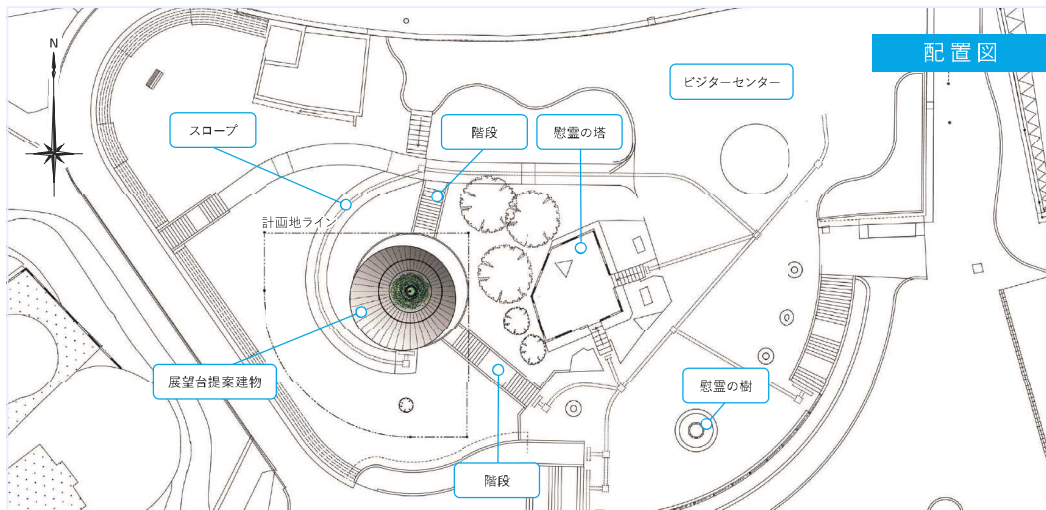


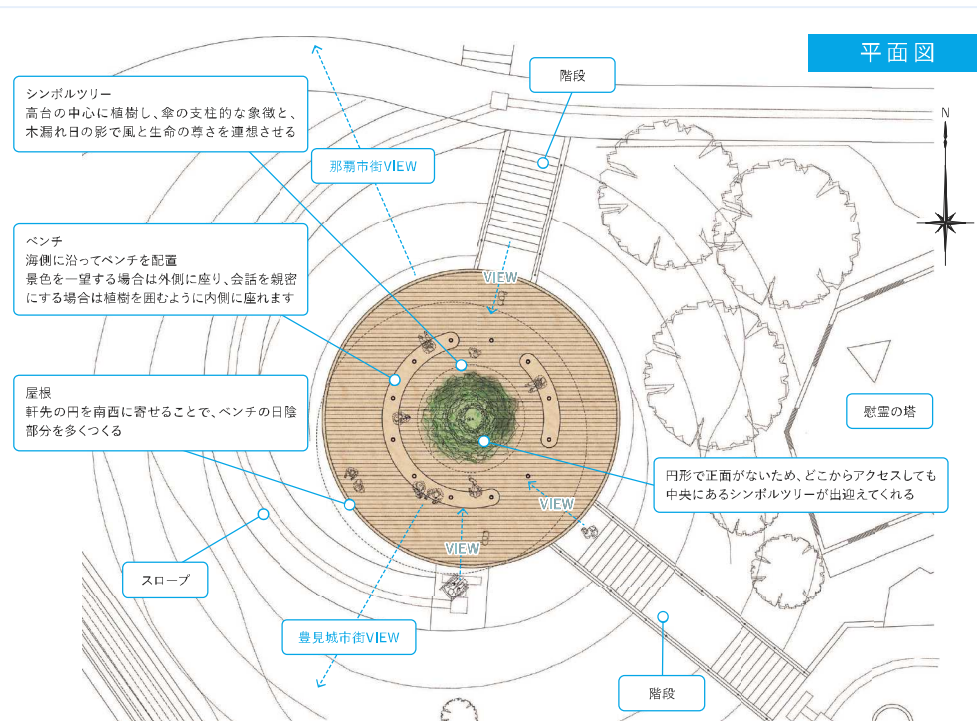
# 日和の傘

沖縄の太陽の日差しは強く、影も深くなります。  
沖縄の歴史も同様に、現在の平和な日常(光)に、  
戦争の過去という深い歴史(影)があり、  
今でも悲惨な記録を見ることが出来ます。  
小高い丘にある海軍壕公園は、  
東シナ海が展望できる重要拠点として、  
日本海軍の司令部が置かれ、激しい戦場になった場所です。  
戦時中は、昼夜問わず艦砲射撃が撃ち込まれ  
「鉄の雨」が降ると表現されています。  
終戦後は爆撃で、辺り一面に砲弾のクレーターが残り、  
草木一本残っていない悲惨な状況。  
そのような状況下で、人々は日の光が届かない壕の奥深くに隠れ、  
「太陽の光を見たい」「新鮮な空気を吸いたい」と  
暗い壕の中で亡くなっていく人が多かったそうです。  
そんな過去の記録に触れ、  
平和について見つめ直すことができる展望台を提案します。





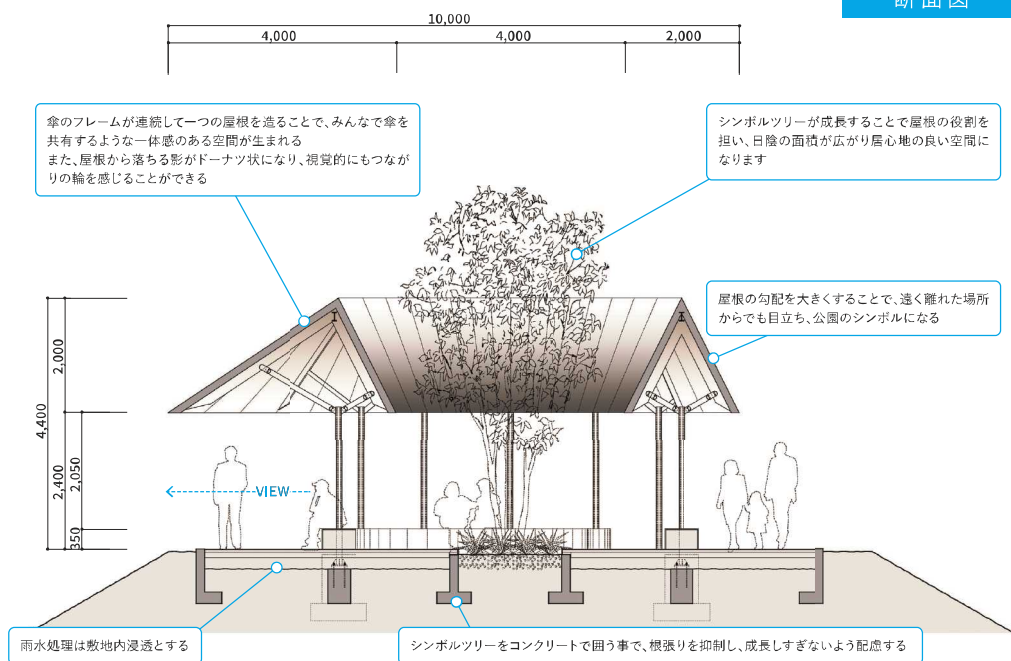
「鉄の雨」という悲しい記憶を忘れないよう、高台の中心に傘をさします。傘はさす人の中心に一人分の領域をつくります。しかし、戦争の過去を振り返る孤独と悲しさに、誰か側にいてくれる存在を求めたくになります。傘が寄り合い、連続して並ぶことで、つながり、一つの大きな輪になります。この場所を利用する人は、輪の中に入ることで、離れた位置関係でも同じ傘を共有するような一体感、親密感、安心感が無意識にその場に生まれます。傘がつくる深い影(過去)に誰かの存在を感じ、戦争についてその場にいる人と同じ思いを抱きながら過去を見つめ、海と市街を展望しながら平和な未来について考える場所になることを願います。



設計概要

階数：平屋建て 仕上：屋根/カラーアルミ鋼板  
 構造：鉄骨造 柱・梁/溶融亜鉛メッキりん酸亜鉛処理の上、ポリウレタン樹脂塗料  
 建築面積：27.35㎡ 床 /人工ウッドデッキ材  
 延べ床面積：35.16㎡ 軒裏/検目板 木材保護塗装  
 最高高さ：4.4m ベンチ/桧材 木材保護塗装

断面図



傘のフレームが連続して一つの屋根を造ることで、みんなで傘を共有するような一体感のある空間が生まれる  
 また、屋根から落ちる影がドーナツ状になり、視覚的にもつながりの輪を感じることができる

シンボルツリーが成長することで屋根の役割を担い、日陰の面積が広がり居心地の良い空間になります

屋根の勾配を大きくすることで、遠く離れた場所からでも目立ち、公園のシンボルになる

雨水処理は敷地内浸透とする

シンボルツリーをコンクリートで囲う事で、根張りを抑制し、成長しすぎないよう配慮する